



世界からみた日本のオルタナティブデータのエコシステム：課題と可能性

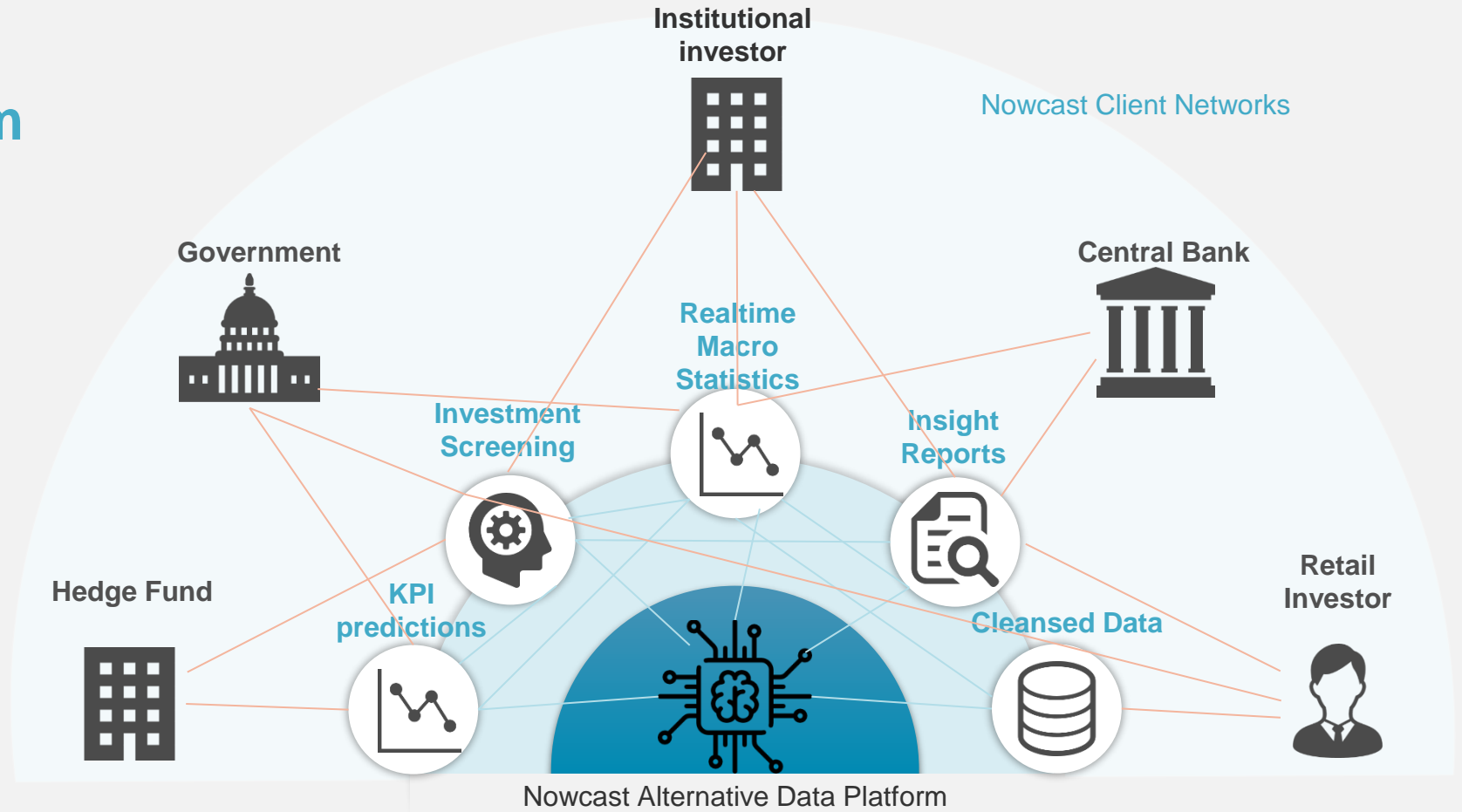
ナウキャストの自己紹介



Nowcast is the top alternative data platform in Japan

ナウキャストのクライアントはPOSデータ、ロイヤリティカードデータ、クレジットカードデータ、ニュース媒体情報など、様々なオルタナティブデータにアクセスすることができます。

顧客第一が我々のモットーです。我々はデータクレンジングやKPI予測、テイルード分析などあらゆるクライアントのニーズに応えていきます。

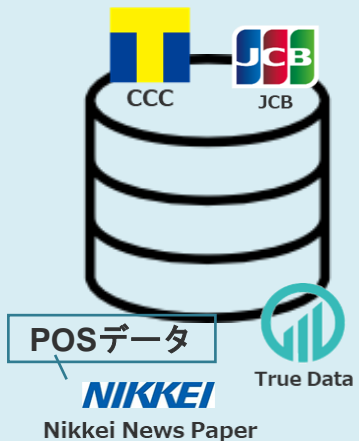





Alternative Data in Japan

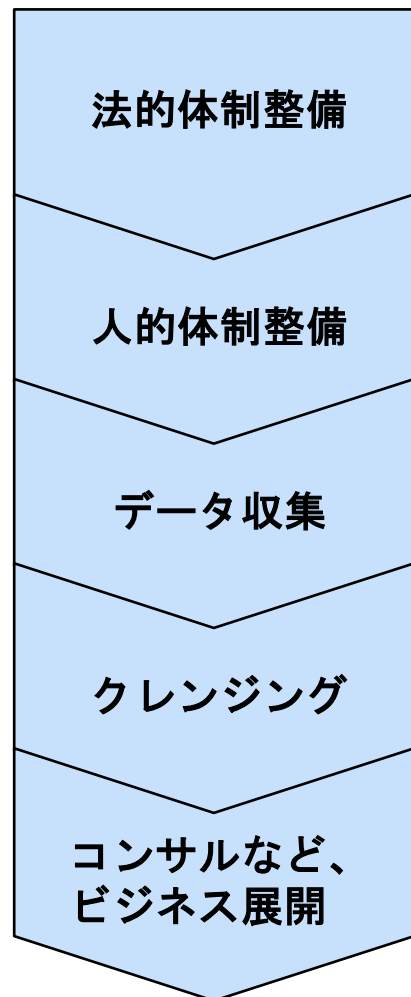
※1 Source: Alternativedata.org

データ収集～レポート提供までワンストップでサービス可能

- データ収集、クレンジング、解析、インサイト分析までの全てを提供可能

データ収集	データクレンジング	インサイトインデックス作成	分析サポート (レポート提供等)
 <p>✓ 幅広いパートナー企業からのデータ収集</p>	 <p>✓ データバイアスの排除 ✓ 店舗、ブランド、企業への名寄せ ✓ データを証券コード(Ticker)に紐づけ</p>	 <p>✓ 業態ごとのKPIとの相関を算出し指標を作成 <例> ・小売り・飲食料企業 ：価格動向 ・サブスクリプションモデルの企業 ：チャーンレート</p>	 <p>✓ アナリストチームによる分析サポートや定期的なレポートの提供</p>

データビジネスの立ち上げに際する必要最低限のプロセス



業務内容

- 個人情報保護対応、匿名化処理など、データ活用への契約面、法的な体制を整備
- 分析基盤構築のためのDWHエンジニア、データ分析のためのアナリスト、サイエンティストの採用、育成などの人的な体制整備
- 持続的なデータ収集のビジネスモデルと技術的な仕組み開発
- 名寄せ、欠測値補完、パネルバイアスの除去などのデータクレンジング
- コンサルティング、サービス開発等、分析結果のビジネス成果への展開

ナウキャストはこの全プロセスをサポートしている

ナウキャストは主軸事業の収益の安定化をバックグラウンドに事業の拡張期に入っています



グローバルに加速するオルタナティブデータの活用



コロナ禍でAlternative dataへの期待が高まっている

“So what we’re seeing is that we monitor quite a lot of what we think of as sort of non-standard high frequency data. That’s become a very important thing, even more important than usual in the work that we do and what that data shows on balance is that the pace of the recovery looks like it has slowed since the cases began, that spike in June. So some measures of consumer spending based on credit card and debit card data have moved down.

FRB Jerome Powell Fed Press Conference Speech Transcript, July 29 2020

“「迅速な対応」を支えるべく、高頻度データの重要性が認識されるようになりました。高頻度データは速報性に優れています。今回の危機によって、危機前から利用されてきた日次の物価、売上げデータに加えて、繁華街の夜間人口の動きから飲食業の状況を把握する、国内の世界文化遺産の滞在者数から旅行の状況を把握するといった移動情報も利用されるようになりました。”

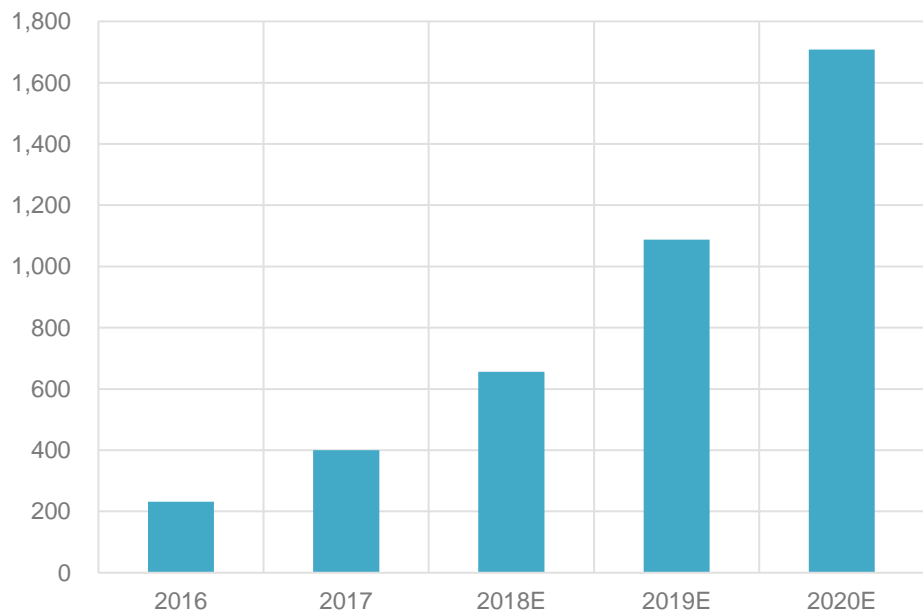
日本銀行副総裁 若田部 昌澄：「最近の金融経済情勢と金融政策運営」
(2020年9月2日)

Alternative dataの市場は拡大傾向

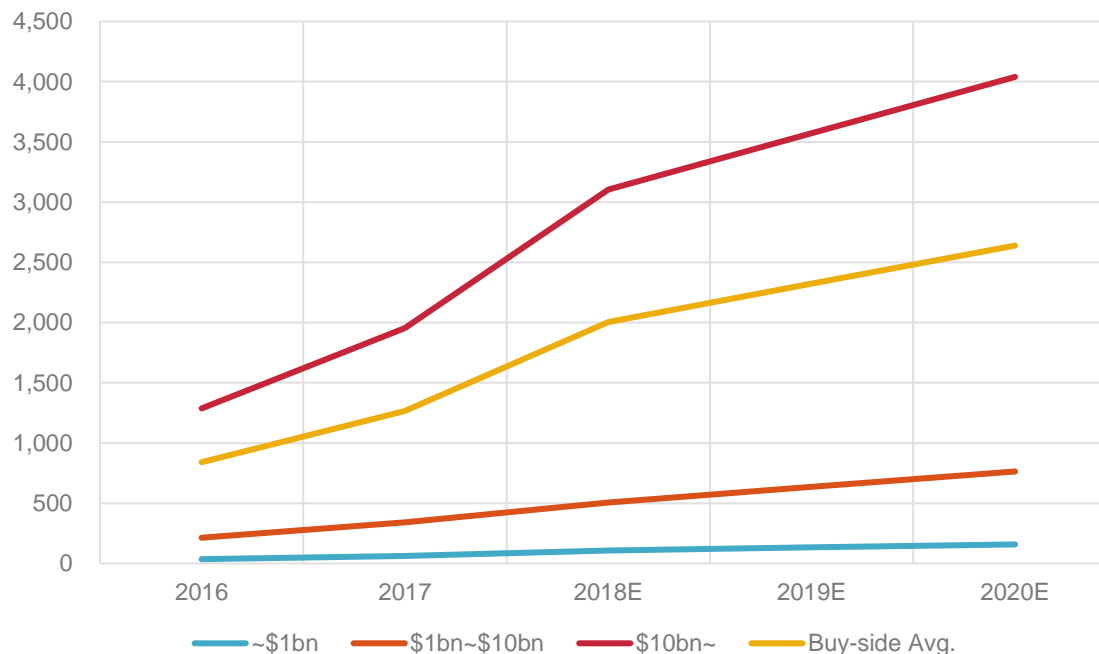
- アクティブファンドが市場を上回るリターンを出すことが難しくなりつつある中で、決算情報・政府統計等、従来用いられてきたデータとは異なる、「Alternative data」の活用に注目が集まっている

Alternative dataの市場規模

Total Buy-side Spend on Alternative Data (\$m)



Average Fund Spend on Datasets(\$k) by Fund Size



日々生まれていく新たな種類のオルタナティブデータ

データ種類	概要	普及度合い	主要なプレイヤー
Webスクレイピング	<ul style="list-style-type: none"> Web上の公開情報を自動収集し、投資観点で有用な情報・DBに集約。カカコムやスカイキャナー等の価格比較サイト等が対象にされている 	◎	YipitData Thinknum など
SNS	<ul style="list-style-type: none"> Twitterやサンサン等のSNSサイト上のコメントやソーシャルグラフ情報を活用し、消費者の「関心」をトラッキングする。 	△	MarketPsych ホットリンク など
携帯位置情報	<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話の位置情報を使って人の移動情報、滞在情報をトラッキングする 感染状況との相関も高く、コロナ禍で最も活躍するデータの一つ 	○	Thasos クロスロケーションズ など
Webトラフィック	<ul style="list-style-type: none"> Webサービスやモバイルアプリ等を主力事業としているインターネット系企業を対象に、同事業の好不調をGoogleAnalyticsのような解析ツールで把握した情報を活用して分析サービスとして展開 	◎	Similar Web App Annie マイクロアド など
衛星画像	<ul style="list-style-type: none"> 衛星画像により、穀物の生産動向や人の移動具合を把握し、先物市場の予測や小売り・テーマパーク等の好不調のトラッキング等を行う 	△	Orbital insight Space know など
新聞記事データ	<ul style="list-style-type: none"> 新聞記事情報やメディアニュース情報を活用しM&Aのイベント把握や、マーケットテーマの抽出、企業の取引情報抽出等を行う 	△	Ravenpack 日経新聞、QUICK など
消費者購買データ	<ul style="list-style-type: none"> POSデータやクレジットカードデータを活用し、消費財の商品別の売上・価格の短期動向を把握、企業決算や業界動向の先読みを行う 	◎	Yodlee、Second measure、 JCB、ナウキャスト など

Alternative dataは情報収集の多様化をもたらしている

市場参加者から見たデータのAvailabilityの変遷

Phase
1

非デジタルの時代

- 紙の媒体を使って情報収集
- 公表された情報をいち早く獲得するために、統計発表日、決算発表日には発表場所まで出向かないといけない、など、「情報獲得のための効率性」が高い時代
- ~1980年代

Phase
2

データのデジタル化

- デジタル媒体を使ったデータの収集が一般化
- Bloomberg、QUICKなどのデータプラットフォームプレイヤーの端末が普及
- 情報収集のスピードでの付加価値は減衰。焦点は①データの分析方法の高度化（財務モデリング、クオンツ運用など）、②データをベースにした投資判断のスピード化へ（HFTの普及など）
- 1990年代~2000年代

Phase
3

オルタナティブデータの時代

- 投資判断に活用するデータの多様化と速報化がトレンドに
- データプロバイダーも多様化。YodleeやMScienceなどのテック系スタートアップ企業が参入
- 「全員が同じ情報にアクセスし、分析を競い合う」世界から「各人の投資スタイルやフォーカスに合わせて活用するデータを選択し、特徴のあるパフォーマンスを獲得する」世界へ
- 2010年代~

皆が同じオルタナティブデータを見る世界はこない



米国セルサイド
リサーチヘッド

- 米国の小売アナリストで、クレカデータを見ずに、決算発表を待っている人はクビ
- Excel職人で食べていく時代は終わった。アナリストもpythonを使えるようにならないといけない



米国
ヘッジファンド
CIO

- 位置情報を投資判断にフル活用している
- ローデータからアルファに繋げる独自のアルゴリズムを持ち、IPとして保護している

- 「誰もが同じオルタナティブデータを見る」時代がやってくるのか？（例えば皆がクレジットカードデータを使う時代がやってくるのか？）
- **否**。こうしたデータはコンテキストにかなり依存する（⇔株価データ、財務データ）し、コストもかかる
- しかし、「食品・日用品セクターのアナリスト」であればPOSデータを見ない手はない。「TMTセクターのファンドマネージャー」であればApp usageデータを見ない手はない。
→ 全員のデスクにBloomberg端末が置いてある世界から、各人の投資スタイルやフォーカスに合わせて扱うデータも変わる世界になっていく

※これはオルタナティブ「アセット」に対しての取り組みと類似している。全投信やアセットオーナーが不動産やインフラファンドなどのオルタナティブアセットは扱わないが、扱う人は扱う。扱う人に差異が出るのは、そこに要求される知見、専門性がバラバラであるから。

マルチストラテジー、クオンツを皮切りにオルタナティブデータの活用が進む

CROSSING THE CHASM: SELLING DATA TO INVESTORS

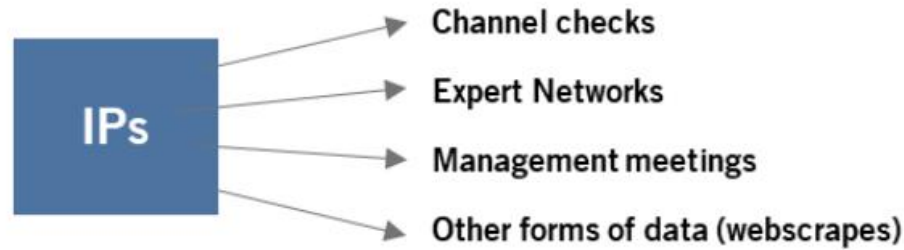
alternativedata.org



出典 : AlternativeData.org

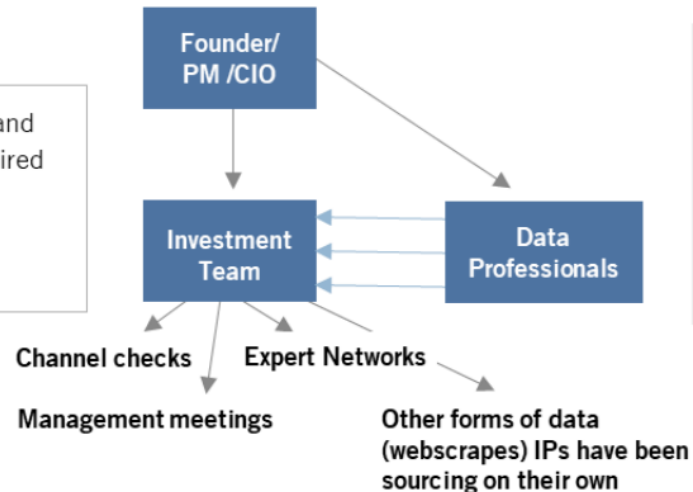
ファンダメンタル投資家もQuantamental化を進めている

The Pull Approach



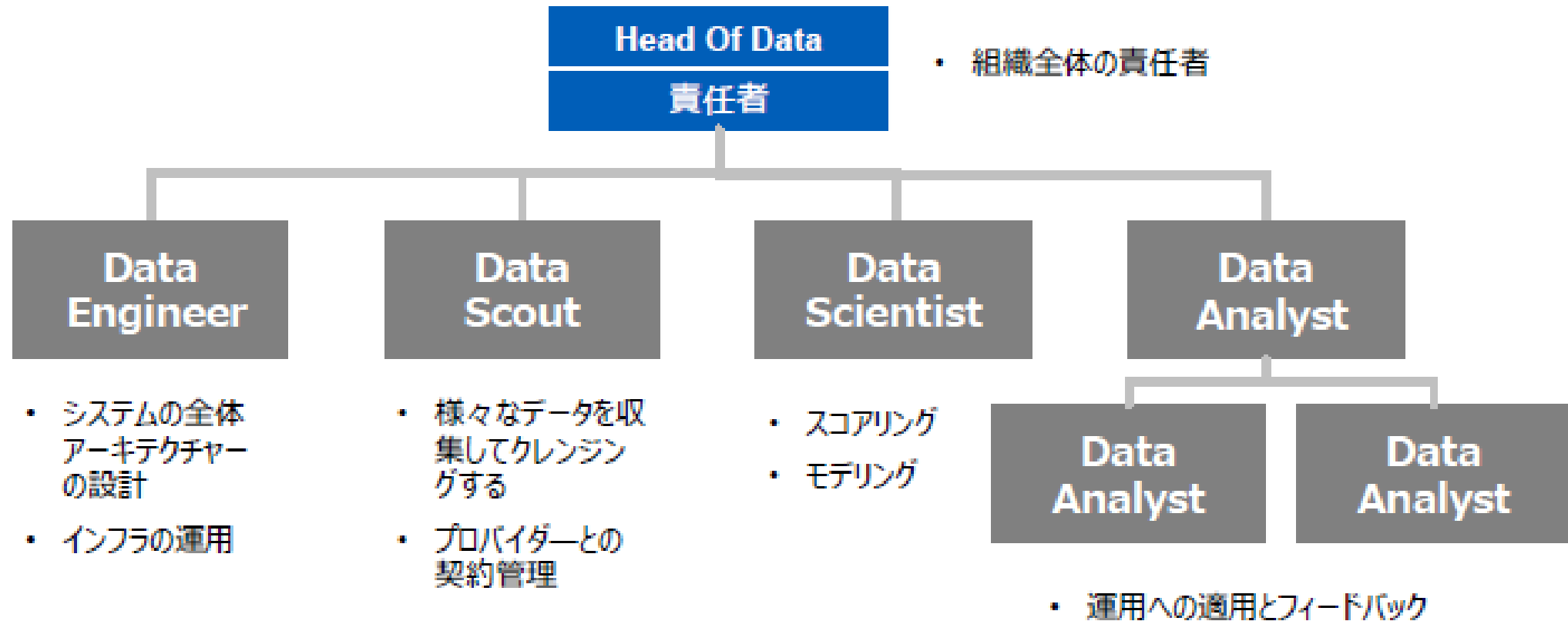
The Push Approach

In the Push approach, a senior Investment (and less commonly, Business) professional has hired a data professional to assist in sourcing, ingesting and sharing new data with the investment team



- Third party data
 - e.g.: satellite, geolocation, credit card, sentiment, weather, macro, NLP, or other data
 - Improving quantitative processes

大手HFのData teamはStructure化が進んでいる



投資家のタイプとデータへの向き合い方

	クオンツ	短期分散投資	長期集中投資
購買データ数	実験的なデータも含めて幅広いデータを利活用	実績のあるデータについては、基本的に購入	5~30銘柄に絞って購買
データの粒度	できるだけ細かいデータ	集計データ	統計加工されたデータ レポート購読
データ活用における焦点	速報性とユニークな分析	速報性	長期的な企業競争力に対するイン プリケーション
データサイエンティストの有無	殆どのメンバーがデータサイ エンティスト、エンジニア	一部ファンドにはデータサイ エンティストが在籍	基本的にはアナリストで構成
その他	データ購買担当者の専任担当 者まで在籍している	決算プレイとの相性が非常に よく、近年最もデータ活用を 進めているセグメント	エキスパートインタビューや フォーカスグループ等、オル タナティブデータ以外にも特 徴あるリサーチ方法を模索す る動きも

- 日本においては、長期投資の機関投資家が多い
- 長期投資でオルタナティブデータ活用を進めている代表例はFidelity、Schroderなど

投資家のタイプとデータへの向き合い方

	クオンツ	短期分散投資	長期集中投資
購買データ数	実験的なデータも含めて幅広いデータを利活用	実績のあるデータについては、基本的に購入	5~30銘柄に絞って購買
データの粒度	できるだけ細かいデータ	集計データ	統計加工されたデータ レポート購読
データ活用における焦点	速報性とユニークな分析	速報性	長期的な企業競争力に対するイン プリケーション
データサイエンティストの有無	殆どのメンバーがデータサイ エンティスト、エンジニア	一部ファンドにはデータサイ エンティストが在籍	基本的にはアナリストで構成
その他	データ購買担当者の専任担当 者まで在籍している	決算プレイとの相性が非常に よく、近年最もデータ活用を 進めているセグメント	エキスパートインタビューや フォーカスグループ等、オル タナティブデータ以外にも特 徴あるリサーチ方法を模索す る動きも

このセグメントの投資家は絶対数として国内に不足している

投資家のタイプとデータへの向き合い方

	クオンツ	短期分散投資	長期集中投資
購買データ数	実験的なデータも含めて幅広いデータを利活用	実績のあるデータについては、基本的に購入	5~30銘柄に絞って購買
データの粒度	できるだけ細かいデータ	集計データ	統計加工されたデータ レポート購読
データ活用における焦点	速報性とユニークな分析	速報性	長期的な企業競争力に対するイン プリケーション
データサイエンティストの有無	殆どのメンバーがデータサイ エンティスト、エンジニア	一部ファンドにはデータサイ エンティストが在籍	基本的にはアナリストで構成
その他	データ購買担当者の専任担当 者まで在籍している	決算プレイとの相性が非常に よく、近年最もデータ活用を 進めているセグメント	エキスパートインタビューや フォーカスグループ等、オル タナティブデータ以外にも特 徴あるリサーチ方法を模索す る動きも

**このセグメントの投資家は
データ活用に慣れ親しんでいない**

海外ファンドと国内運用会社はオルタナティブデータ利用のスタンスが大きく異なる

	海外ファンド	国内運用会社
浸透度合い	オルタナティブデータを利用していないほうが珍しい	オルタナティブデータを利用しているほうが珍しい
集計粒度	Raw data	Aggregated data
銘柄紐づけ	銘柄別が基本	マクロが多い
予算	リサーチコスト	研究開発コスト
社内の主導者	フロントオフィス (PMやアナリスト)	ミドルオフィス (運用企画部や経営企画部等)

曖昧化する非金融データと金融データの境目

オルタナティブデータ = 金融、資産運用ではない

用途拡大が進む

データの種類が増える

	市場調査	広告	金融	信用判定、保険 etc
POS	インテージ、日経POSなど		現在の業界のフォーカス	
ポイント	Tポイント、dポイントなど			
決済	JCB、三井住友カードなど			
SNS	ホットリンクなど			
アプリ	AppAnnieなど			

- 日本はPOS×市場調査がデータビジネスの起点だったところが、どんどんデータの種類と用途が拡大をしていっている
- オルタナティブデータ = 金融と捉えがちだが、「データの種類の拡大」と「データの用途の拡大」の2つのトレンドを掛け合わせたメガトレンドとして捉えるべき

金融情報ベンダーと非金融情報ベンダーの境目が曖昧に

Quick

FACTSET

Bloomberg

REFINITIV® 

An LSEG Business

NIKKEI

KDDI

JCB

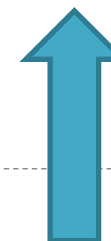
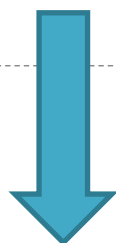
 intage®



MicroAd
Redesigning the Future Life

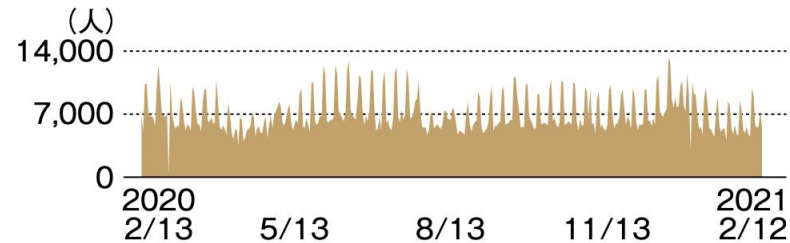
金融情報ベンダー

非金融情報ベンダー

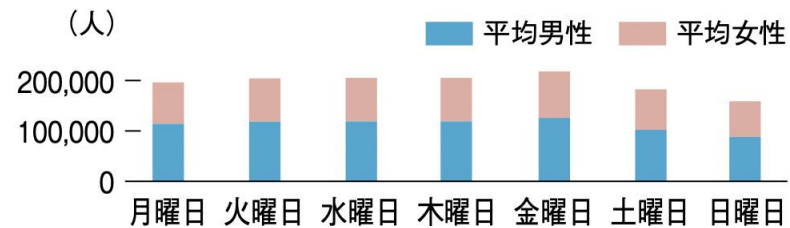
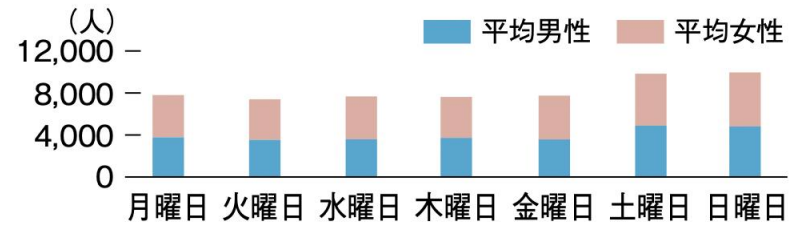
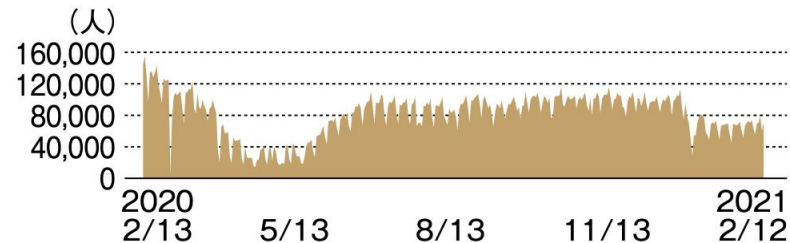


ナウキャストも不動産領域など、新たな用途の開発に取り組んでいる

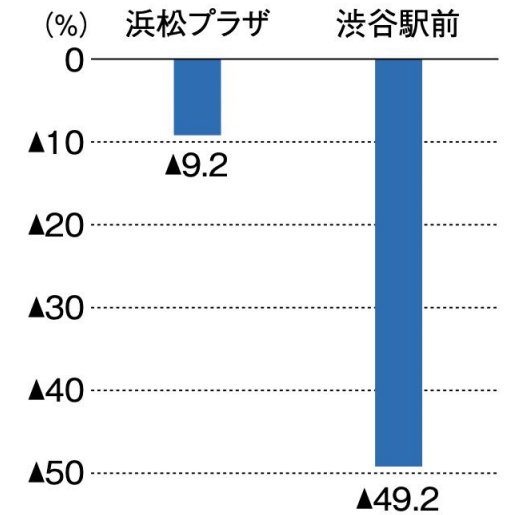
浜松プラザ



渋谷駅前



人出の変化率



(注1)これらのJCB消費NOWが提供するデータの母集団は、株式会社ジェーシービー(JCB)が発行するクレジットカード(JCBカード)の利用者の一部に限定されています。そのため、その提供データから得られる情報に基づいて消費動向等を完全かつ正確に把握することができるわけではありません。加えて、JCBカードの決済データの地域情報は、その会員の登録地をベースとしています。即ち、静岡県に在住する会員(静岡県を登録地とする会員)の決済データは、当該会員による登録地以外の都道府県やECサイトにおける消費に係る決済データを含みます。他方で、静岡県以外で登録された会員による静岡県内における消費は含まれていません。そのため、静岡県における消費動向を完全かつ正確に示しているわけではありません。以下同じです。

(注2)2021年3月については速報値を用いて作成しているため、確報値に基づく内容は上記と異なる可能性があります。

出所：株式会社KDDIの携帯電話の位置情報等のビッグデータの解析情報(2020年2月から2021年2月まで)に基づく推計値より本資産運用会社が作成

(注)「人出の変化率」については、2020年2月の滞在人口を2021年2月の滞在人口で除して算出しています。

出所：東海道リート投資法人「新投資口発行及び投資口売出届出目論見書」(2021年5月)より抜粋

国内外の規制環境



急成長するオルタナティブデータ市場は、規制当局も注視している

26 | U.S. SECURITIES AND EXCHANGE COMMISSION

Alternative data, or data gleaned from non-traditional sources, is increasingly being used by firms, including advisers to private funds and registered investment companies, as part of their business and investment decision-making processes. Reviews will include examining whether firms are implementing appropriate controls and compliance around the creation, receipt, and use of such information.

DID YOU KNOW?

Examinations of market participants engaged with digital assets will continue to assess the following: (1) whether investments are in the best interests of investors; (2) portfolio management and trading practices; (3) safety of client funds and assets; (4) pricing and valuation; (5) effectiveness of compliance programs and controls; and (6) supervision of representatives' outside business activities.

The digital asset market continues to evolve, and so too does the adoption of distributed ledger technology in financial services and market infrastructure. Examinations of market participants engaged with digital assets will continue to assess the following: (1) whether investments are in the best interests of investors; (2) portfolio management and trading practices; (3) safety of client funds and assets; (4) pricing and valuation; (5) effectiveness of compliance programs and controls; and (6) supervision of representatives' outside business activities.

- 急成長するオルタナティブデータ市場は、個人情報保護法や金商法など様々なレギュレーションと密接に関連性があるものの、明確なルールがある状態ではない
- SECは昨年のExamination prioritiesに、オルタナティブデータを初めて入れた
- 日本の金融庁は明確なスタンスを出していないが、今後この点が具体化していく可能性が高い

出所 : US SECURITY EXCHANGE COMMISSION “EXAMINATION PRIORITIES”(2021/3/3)

ここ最近はかなり減ってきたが、国内運用会社は コンプラリスクでこの足を踏む場合もある



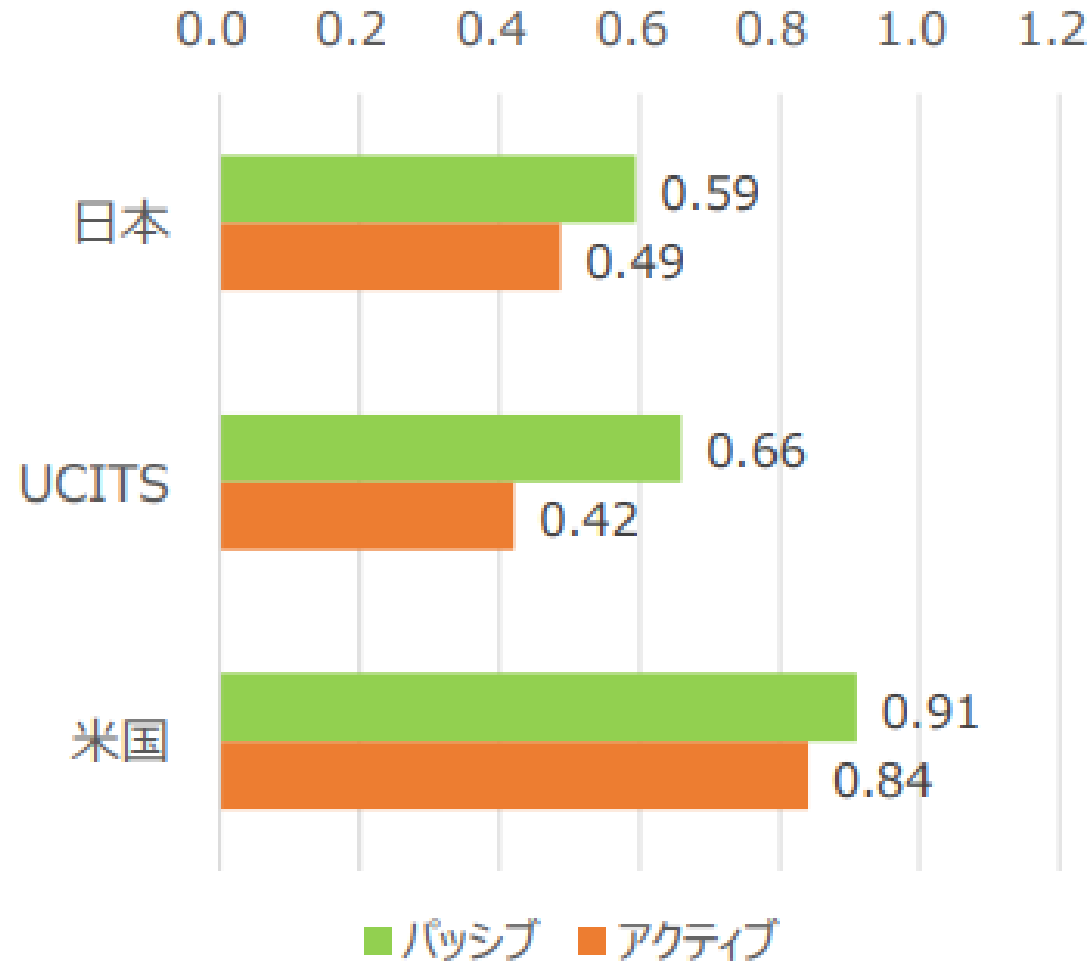
(国内運用
会社大手)

- POSデータを個別企業レベルで利用することは法的にOKなのか、判断がつかない
- 法人関係情報に該当する可能性があり、リスクが取れない
- 上記コンプライアンスリスクを鑑みるとデータとしては利用してみたいと思っているが、あくまでマクロ的なデータを利用することに留めたい



- 結果として、アルファ・個別銘柄投資につながるような直接的なデータを国内運用会社が提供を受ける事例は少ない形に。
- 「海外ファンドが視力1.0で見えている世界を、国内運用会社は視力0.5で見ているように感じる」（海外運用会社在籍の日本人データアナリスト）

オルタナティブデータ活用の遅れが、シャーププレシオの低迷の要因になっているのではないか



出所：金融庁「資産運用高度化プログレスレポート2022」（2022年5月）

まとめ



まとめ

現状の国内の業界課題

長期投資を中心とした国内の需要家で
データ活用が進んでいない



実現したい成果

オルタナティブデータの活用シーンを
具体化、啓蒙

非金融領域での活用用途の模索が不足



金融に限らない活用用途を模索
(例：不動産、保険など)

レギュレーション環境の曖昧さ



行政との対話とルール作り